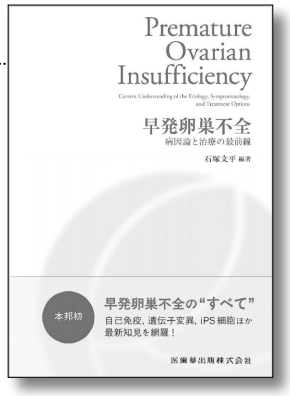
書評 BOOK REVIEW



『早発卵巣不全 病因論と治療の最前線』

石塚文平　編著
◉定価 9,900 円（税込み）　◉ B5 判 226 頁　◉医歯薬出版刊
◉発行年月：2026 年 1 月　◉ ISBN978-4-263-20056-8

ライフワークとして真摯に向き合い続けてこられた活動の書

この度，石塚文平先生（聖マリアンナ医科大学産婦人科名誉教授，ローズレディーズクリニック院長・理事長）が，早発卵巣不全（Premature Ovarian Insufficiency）の著書を刊行されたことを心からお喜び申し上げます．私は，かれこれ 30 年以上にわたり，石塚先生と早発卵巣不全に関する研究をさせていただき，また，多くのことをご指導いただいております．その過程で，石塚先生が「早発卵巣不全」の研究と臨床をご自身のライフワークとして，真摯に向き合い続けておられることに深い感銘を受けております．石塚先生は，早発卵巣不全が，以前では（そしておそらく現在でも）根本的な治療が極めて難しいとされてきたにもかかわらず，多くの患者さんと真摯に向き合い，可能なかぎりの医療とカウンセリングをされ，その結果，患者さんからの厚い信頼を得てこられました．これは石塚先生のお人柄を表すものであり，この点を強調させていただきたいと存じます．また，長く研究や臨床を粘り強く継続することはとても大切なことであり，長く研鑽を続けておられることにも敬意を表したいと存じます．

各論的なことで 2 点触れさせていただきたいと思います．1 つめは，早発卵巣不全の原因は多岐にわたりますが，近年の遺伝子解析技術の進展に伴って極めて多くの原因遺伝子が判明してきたことです．これは，早発卵巣不全の発症原因を明らかにするうえで重要な情報を与えることにつながります．さらに，早発卵巣不全は，原発性無月経を伴うときには家系を形成しませんが，続発性無月経を呈するときには家系例となることがあり，遺伝カウンセリングなどにおいて重要な知見が得られると思われます．

2 つめは，卵巣保存や再生医療（生殖細胞作出）などの治療法の開発が進められていることです．これは，まさしくパラダイムシフトと呼べるようなシステム構築につながり得ると思われます．このような治療法の開発がどこまで進むのか，是非，注視させていただきたいと思います．

そして，最終的に重要なことは，患者さんとの信頼関係であると確信します．信頼関係こそ，遺伝学的解析や再生医療を実施する基盤となると思われます．そのようなとき，石塚先生が長年にわたってなされてきた活動が結実するものと確信いたします．そのような視点からも，石塚先生の益々のご活躍を祈念いたします．

（緒方 勤／浜松医科大学医学部特命研究教授・特定教授）